

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 2 年度第 2 回 富士見市環境審議会 議事録</p>						
日 時	令和 2 年 1 1 月 1 7 日 (火)		開会	午後 2 時 0 0 分		
			閉会	午後 3 時 0 0 分		
場 所	富士見市役所本庁舎 1 階 全員協議会室					
出席者	委 員	須田委員	木内委員	中村委員	星野委員	濱野委員
		○	○	○	欠	○
		守山委員	柳田委員	五十嵐委員	細田委員	関委員
		○	○	○	○	欠
		水村委員	高橋委員	戸塚委員	細田委員	田中委員
		○	○	○	○	○
	事務局	環境課 村木課長、斉藤副課長、山田主査、森田主査、田口主事 (株)環境総合研究所 寺山、藤本				
公開・非公開	公開 (傍聴者なし)					
議 題	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1) 富士見市一般廃棄物処理基本計画 (第 3 次計画) 素案について (2) その他 4 閉会					

議 事 内 容

議事（１）富士見市一般廃棄物処理基本計画（第３次計画）素案について

【事務局からの概略説明】

・第１回審議会での意見や質問について、低炭素化社会から低炭素社会への変更、将来人口の訂正、最終処分場の残余年数、公園以外の施設でのチップ化の検討、富士見市で一人一日当たりのごみ排出量が少ない理由、粗大ごみの減量化や再資源化のシステム構築、事業系ごみの削減における補助金制度の検討、ららぽーとから排出されるごみの搬入先と志木地区衛生組合の関係、事業系ごみの増加理由の説明について回答した。

・再送付した素案の修正箇所の説明を行った。

・第４章について、人口、事務所数・従業者数、土地利用、ごみ排出量・処理量の将来予測の説明を行った。

【審議内容】

<委 員> 全体的な感想だが、前回の審議会での素案からかなり大幅に変わっているのが驚いた。前は平成３０年度までのデータを使っていたが、今回は令和元年度のデータを使っているため変わったのだろうが、事前に会長に伝えていたのか。

<事務局> 委員の皆様を送付する前に会長にご説明し、了承を頂いてから送付させていただいた。

<委 員> いろいろな所で家庭系のごみや事業系のごみが増えてくるが、数値が整合されていない部分があるようである。例えば資源化率などの目標数値の出し方を書いた方が良かったのではないかと。できるだけ変更前後の数値がわかるようにした方がよい。また、前回素案との変化点についても、内容をわかるように伝えて頂きたかった。

<事務局> 数字の整合性については再度確認する。目標値などは根拠を分かりやすくしていく。

<委 員> １０ページで家庭系のごみは２５，０００ｔで横ばいと書いているが、２７ページをみると令和２年度から２２，０００ｔとなっている。令和元年度は２４，３２０ｔ、令和２年度は２２，８２６ｔとなっているのを、減っていくと見てしまっているのか。

<委 員> 資源ごみなどの数値を抜いてあるため数値が合わないことがあると思われる。このようなことを含めて、理由を説明し、整合をとれるようにしてもらいたい。

<委 員> 令和２年から将来予測だけ見ると少しずつ減っているが、逆に人口は増えていく。さらにテレワーク等で日中に富士見市にいる人が増えるため、ごみは増えるのではないかと。どうすれば減らせるのか、何か策はあるのか。

<事務局> 例えば１０ページを見てもらうと、この時期も人口が増えつつも家庭系ごみについては少し減ってきている。

<委 員> このときはコロナ禍になる前の話では。最近の情勢をみると変わってくることもあり得るのではないかと。

<事務局> コロナについては現時点では将来的にどこまで続くのか予測できないのと、収束したとしてすぐに元に戻るのかは分からないため予測に入れるのは難しい。

<委 員> 確かにテレワークを続ける事業者もあるだろうと考えられるため、難しいと思われる。それではコロナによる影響を抜きにして考えるということではよろしいのか。

- <事務局>令和元年度3月までの数値が含まれているので、その分増加した数はその中に含まれている。
- <委員>最近のごみの排出量はデータに変化として表れているのか。
- <事務局>令和元年度以降は増加傾向にある。
- <委員>しばらく様子を見てということになるのだろうかと思う。途中で数値目標を変えることも必要と考えているのか。
- <事務局>5年たった時点で検討するが、それ以外にも大きく状況が変わった時点で見直しを検討する。
- <委員>3ページの過去10年間の人口と世帯数についてだが、数値が前回と異なっているが、総人口を世帯数で割ると今回の数値になるという解釈で良いか。
- <事務局>総人口で世帯数を割ると令和2年度でいえば四捨五入して2.0となる。前は四捨五入する場所が間違っていたため、今回修正させて頂いた。
- <委員>15ページのごみ処理経費のグラフについてだが、データの出典元の関係もあるだろうが、ごみの排出量の推移などは令和元年度まで入っており、令和元年度決算も終わっているかと思うので、比較するためにも令和元年度を入れた方が良いと考える。
- <事務局>令和元年度の数値も載せることを検討する。
- <委員>18ページの類似団体との比較だが、廃棄物からの資源回収率以外のグラフで、Y軸が下にいくにつれて増加しているのに違和感がある。下が0からスタートし、上に行くにつれて数字が大きくなるのが一般的であると思うが、何か意図があるのか。
- <事務局>環境省の市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツールの表示方法に合わせており、表現方法の変更について検討する。
- <委員>28ページについて、確かに現在は「コロナ渦」であるが、この計画は令和3年度からスタートするため、「アフターコロナ」という表現を挿入できるか検討して頂きたい。感染症対策のため、との表現はあるが、アフターコロナという表現の方がうまく収まるのではないかと考える。
- <事務局>ご指摘の表現方法について、検討する。
- <委員>41ページの施設の概要で、放流先に荒川右岸流域関連ふじみ野公共下水道とある。埼玉県には8つの流域下水道があり、9つの循環処理場があると記憶しているが、荒川右岸流域公共下水道に「関連ふじみ野公共」という名称がついていたことは知らなかった。また、生活排水処理フローでは、公共下水道から終末処理施設（新河岸川水循環センター）に行き、「公共用水域」へ放流される表記となっているため、この文言の違いを教えてほしい。
- <委員>荒川右岸流域公共下水道ではないか。通常では荒川右岸、要するに河川で上流から下流に向かった右側を右岸というが、北が吉見町、西の方では入間市、狭山市、所沢市、和光市まで通っている。そのため荒川右岸流域下水道となっているはずだが、ふじみ野公共下水道というふじみ野市にあるのかと思ってしまう。この辺ではバイパスの下に荒川右岸流域下水道が入っており、通常では463号のところでも所沢方面からの下水道が入っており、荒川右岸流域公共下水道で処理していると思うが、あえてふじみ野といれたのがなぜか分からない。
- <事務局>この表は、入間東部地区事務組合（浄化センター）のところから一度ふじみ野の公共下水道に入り、荒川右岸流域下水道につながると示して

いると把握していた。入間東部地区事務組合のホームページ上ではこの表記になっているが、確認する。

<委員> 39ページは、荒川右岸流域下水道で、終末処理場は和光市にあるはずである。41ページの方はし尿の処理場だと解釈するが、住所はどこか。

<事務局> ふじみ野市駒林である。

<委員> 駒林だとふじみ野市で間違いないだろう。ふじみ野市の公共下水道に放流しているかどうかを確認すべきである。し尿の方の放流と解釈すればわかりやすい。間違いはないと思うが、初めて聞く人は分かりにくだろう。

<事務局> ご指摘の内容について確認し、表現を検討する。